



この時の、あなたの体と話しながら。

放送大学創立30周年記念
富山健康セミナー

「漢方を健康に役立てよう」

第3回 富山のくすし市民講座

平成25年7月13日(土)13:00~(開場12:30)

富山県民会館3階304号室

参加無料 どなたでもご参加いただけます。

※薬剤師の方には漢方薬・生薬認定薬剤師シールを発行します。問合せ：放送大学富山学習センター TEL.0766-56-9230

漢方はからだの恒常性を維持し、
その歪みをただすことに主眼をおいています。
そして身体と心は切り離せないものと考え、
自覚症状も大切にします。
また治療に用いる生薬も天然の恵みを
最大限に利用しています。
今回は新しい漢方診療の実際を嶋田先生、
生薬については御影先生からお話をうかがいます。
和漢薬の伝統が息づく富山ならではの講座です。

プログラム

- 13:00 講演1
葛根湯が作れなくなる!?
—マオウを求めて世界中を駆け巡る—
御影雅幸
[金沢大学大学院自然科学研究科薬学系 教授]
- 14:30 休憩
- 14:45 講演2
漢方診療の実際 —エビデンスを交えて—
嶋田 豊 [富山大学大学院医学薬学研究部和漢診療学講座 教授]
- 16:15 主催者挨拶
服部征雄 [放送大学富山学習センター所長・NPO法人富山のくすし理事長]



御影 雅幸 (みかげ まさゆき)

略歴

1948年10月7日生

現職 金沢大学大学院自然科学研究科薬学系教授、金沢大学薬学系の附属薬用植物園園長兼務

学歴等

1975年3月

富山大学大学院薬学研究科修了

1984年学位

薬学博士(富山医科薬科大学)

職歴

1978年2月

富山大学和漢薬研究所助手

1978年4月

富山医科薬科大学和漢薬研究所に移籍

1988年7月

金沢大学薬学部助教授

1998年5月

金沢大学薬学部(現医薬保健研究域薬学系)教授

2004年4月

金沢大学大学院自然科学研究科教授
(重点化)

2008年4月

金沢大学医薬保健研究域薬学系教授
(再編)

(現在に至る)

著書: 生薬学概論(南江堂)、身近な薬用植物(保育社)、毒のある植物(保育社)、生薬の玉手箱I(ウチダ和漢薬)、医療における漢方・生薬学(廣川書店)、ピスターリ ヒマラヤ(京都廣川書店)など

講演 1

葛根湯が作れなくなる!?

—マオウを求めて世界中を駆け巡る—

御影 雅幸 [金沢大学大学院自然科学研究科薬学系 教授]

漢方生薬の「麻黄」は、葛根湯を始めとする重要な漢方薬に配合される薬物です。その原植物はマオウ科マオウ属植物で、薬用部位は地上部の草質茎ですが、日本には自生しておらず、全量を輸入に頼っています。

マオウ属植物(*Ephedra*)は裸子植物の仲間、中でも最も進化した一群に位置づけられています。世界に約50種類が生育すると考えられていますが、形態が単純でかつ生育環境の違いで大きく変化するため、分類が困難な一群です。

中国医学では古くからシナマオウ *Ephedra sinica* Stapf を始めとするマオウ属植物が薬用にされ、感冒初期などに応用される「葛根湯」や「麻黄湯」、また花粉症や小児喘息などに応用される「小青竜湯」、高齢者の感冒に応用されることが多い「麻黄附子細辛湯」など重要な処方配合されてきました。一方、西洋医学でも、喘息治療になくはならないアルカロイドのエフェドリンを含有する植物として重要で、さらにエフェドリンは覚醒剤原料としても知られています。漢方生薬としては現在、日・中ともに麻黄の原植物として *E. sinica* Stapf, *E. intermedia* Schrenk & C.A.Meyer, *E. equisetina* Bunge の3分類群を規定しています。

マオウ属植物は日本には自生がなく、漢方薬原料としては古来中国やその周辺諸国から輸入されてきました。一方、近年の中国ではマオウ属植物資源が減少し、中国政府は1999年から資源保護と砂漠化防止を理由に、加工品以外は輸出禁止措置をとるなど、中国からの輸入が困難になりつつあります。

こうした経緯から、演者らは長年にわたり中国におけるマオウ属植物資源と栽培問題について調査研究を行なった結果、次のようなことが明らかになりました。(1) マオウ属植物資源減少の最大の原因は農地開墾であり、次いで乱獲、過放牧などの影響がある。(2) 栽培種として適しているのは *E. sinica* で、根茎をひいて増殖する性質が強い。(3) アルカロイド含量が高い種は、*E. equisetina* であるが、本種は岩場や瓦礫地でのみ生育し、栽培が困難である。(4) 乾燥した土地に生える株ほどアルカロイド含量が高い。

また、中国以外の地域にもマオウ資源を求めて、周辺諸国やヨーロッパを始めとする世界各地で調査してきました。今回はこれらの調査内容や得られた学術的な成果を、多くのスライドを用いてご紹介します。



嶋田 豊 (しまだ ゆたか)

1982年

富山医科薬科大学医学部卒業
富山医科薬科大学附属病院和漢診療室
(現在の和漢診療科)に入局

2003年

富山医科薬科大学医学部和漢診療学講座
教授

2005年

富山大学医学部和漢診療学講座 教授
(大学の再編・統合による)

2006年

富山大学大学院医学薬学研究部
和漢診療学講座 教授

資格：博士 (医学)、日本東洋医学会漢方専門医、日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医など

役職：日本東洋医学会理事、和漢医薬学会理事、WHO伝統医学協力センター長など

受賞歴：2001年 日本東洋医学会奨励賞、
2012年 和漢医薬学会賞など受賞

講演 2 漢方診療の実際

—エビデンスを交えて—

嶋田 豊 [富山大学大学院医学薬学研究部和漢診療学講座 教授]

今回は、日頃、富山大学附属病院和漢診療科で診療を行っている経験から、実際の症例や最近のエビデンス (研究に裏付けされた根拠) を交えて、現代医療における漢方診療の実際についてお話しさせていただきます。

漢方治療の良い適応は以下のことが挙げられます。

1) 西洋医学ではあまり良い治療がない

冷え症、疲労感・虚弱体質など

2) 日常よくある症状・疾患 (プライマリケア)

感冒、頭痛、便秘など

3) 臨床試験で有効性が証明されている

機能性ディスペプシア (機能性胃腸症)、認知症の行動・心理症状など

4) 西洋医学治療の補助療法・合併症対策

西洋薬の副作用の軽減、腹部術後の腸閉塞の予防など

5) 「未病」、特に動脈硬化のリスクがある病態

生活習慣病、メタボリックシンドローム、糖尿病合併症など

■ 放送大学富山学習センター

1981年6月に「放送大学学園法」が公布・施行され、次いで1983年4月に放送大学が設置され、今年で30周年を迎えます。

放送大学は、正規の通信制大学で、学士・修士の学位取得やキャリアアップ・自己実現など、生涯学習を目指す方を支援しております（学生数は約9万人弱）。富山県においては1992年5月に富山県立大学内に、富山ビデオ学習センターが開設され学生の受け入れが開始されました。現在、富山学習センター所属学生は約780名程であります。毎年4月と10月に新規学生を受け入れており、規定の単位を修得しますと教養学部卒業の学位、専攻する修士の学位が授与されます。

入学等に関するご相談は放送大学（射水市黒河 5180）に直接お越しいただくか、電話（0766-56-9230）でお問い合わせください。

富山県射水市黒河5180(富山県立大学内)

TEL 0766-56-9230

ホームページ <http://www.ouj.ac.jp>

■ NPO法人「富山のくすし」

富山・石川県で採用された文科省の知的クラスター事業の一環として2010年11月に設立、認証された特定非営利活動法人です。

薬師（くすし）とは、わが国における伝統的な医師の古称です。彼らは漢方や本草学の知識をもとに治療をおこなってきました。今日の様に医薬の分業がなされていない時代では、薬師は医術と同時に、広範な薬用植物に関する知識をもっていました。富山で栄えた配置売薬業も薬師としての役割の一端を担ったものと言えます。

私達はこの薬都、富山において培われた「くすり文化」を更に発展させ、国民の健康・長寿に役立てるばかりでなく、次世代のくすり文化の担い手を育成することをめざしております。今回の市民講座は富山県の後援を得ておこなわれるものです。

NPO法人事務所：富山県射水市赤井 95-1

TEL 0766-52-4314

支所：富山市杉谷 2630

富山大学和漢医薬学総合研究所 生薬資源科学研究室内

TEL 076-434-7608

ホームページ <http://toyamanokusushi.or.jp/>